分かち合い　神の母聖マリア　2022 年　１月１日（土）

ルカ 2-20

明けまして、おめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。この年が愛する皆様にとって良い年になりますように。

それでは、お近くの方と、この年も挨拶をして始めましょう。「この年があなたにとって主の平和に満ちたものとなりますように」という思いを込めて「あけましておめでとうございます」と握手を持ってご挨拶ください。どうぞ。

キリスト教の暦で言いますと、 待降節が１年の始めで、静かに主のご降誕を待ち、喜びのクリスマスを迎えて、年をまたいで、 東方から占星術の学者たちが主イエスとお会いにきたことを覚える主の公現日までが、年の初めになります。私たちはこの数日、ベツレヘムでお生まれになった神の御子に崇拝のまなざしを注いできました。神の母聖マリアの祭日である今日は、神の母聖マリアに目を向けます。そして強いきずなで結ばれたマリアと御子、それぞれについて考える機会が与えられています。人となって我々の間におられる神の子主イエスへの信仰と、神の母聖マリアへの信心が深く固く強められますように。

新しい年を迎えた今日、降誕 8 日目にあたる 1 月 1 日に、教会は、ローマの古い伝統に従い、神の母聖マリアの祭日を祝います。聖マリアを「神の母」と宣言したのは、431 年のエフェゾ公会議でした。年のはじめを聖マリアの記念日として祝い、祈るのは古いローマ教会の伝統によっています。また、この日がことに大事にされるようになったのは、12 月 25 日から数えてちょうど 8 日目にあたるからです。8 日目にあたる今日、誕生した神の子は「イエス」と命名されることにより、正式に神の民の歴史、人類の歴史の一員になったということです。そして、聖マリアには、救い主としての主イエスの使命に、自分も深く一致するという母の姿があります。

聖マリアは主イエスを産んで、主イエスとの母子としてのかかわりのみを大切にする思いだけに閉ざされるのではなく、主イエスの周りで起こる出来事すべてに開かれ、気を配っておられます。今日の福音が思い起こさせてくれたように、聖マリアはそれらの出来事を心に留め、思い巡らし、深く味わっておられます。そして聖マリアは、羊飼いたちに主イエスを示し、彼らを喜びでみたしましたように、今日も私たちに恵みそのものである主イエスを示し、与え続けられます。

神様は聖マリアに、ご自分の独り子の母となるよう求めるだけではなく、御子とともに、御子のために、救いの計画に協力するよう求めておられます。それは、はしためである聖マリアのうちに、神様の慈しみの偉大なわざが実現するためです。私たちは神の母聖マリアとともに、救い主をこの世にもたらしてくださった方への感謝の思いを深めていきましょう。

ところで、今日は「世界平和の日」でもあります。世界の人々と心をひとつにして、たまものである平和を祈り求めましょう。そして、『聖書と典礼』の 7 ページに書いてあったように、「家庭による愛の喜び」を大切にして、「私たち一人ひとりが一つの神の家族の一員であることを自覚し、調和と平和のうちに、共に生きることを願って」お祈りしましょう。

改めて新年おめでとうございます。神の母聖マリアの祭日おめでとうございます。年の始めに、命を与えてくださる神様に感謝し、主がこの一年を通して、皆さんに繁栄と平安を賜りますよう、また神の母聖マリアとともに主イエスへの深い信仰と証しの道を歩むことができますようにお祈りを申したいと思います。